

2010.10.01「外交は政治家の責任だ！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

本日 10 月 1 日からようやく第百七十六国会が始まります。今年の 6 月に発足した菅内閣ですが、発足直後に国会を閉幕して参院選に入りました。そして選挙後は敗北の責任を取る形で代表選が行われ、ようやく今日から国会が開始されます。その結果この 4 カ月間、政治空白が続いてきました。その間に、急激な円高とデフレにより、とんでもない経済状況に陥っています。しかし、政府はまともな経済対策を何一つ打っていません。麻生内閣の時代からのエコポイントなどの投資減税的な政策が功を奏して何とか景気を下支えてきましたが、今年度中に終了するものがほとんどであり、この先のことが心配です。しかし、これについては未だ何も方策が出ていません。

さらに、9 月には中国の漁船が尖閣諸島に侵入してきました。日本の領海で操業しているだけでも問題ですが、警告をした巡視船に体当たりをするなど言語両断です。しかし、事件以上に驚いたのは、海上保安庁が逮捕した船長を、釈放したことです。しかも、その釈放は検察独自の判断であるとの一点張りです。この問題は国会が閉会中でしたが参議院、そして衆議院の予算委員会で議論されましたが、今後の国会の中で最大の争点になると思います。

この問題について私が申し上げたいのは、自民党側の追及が少し方向が違うのではということです。なぜなら、形式上は検察が独自の判断で管理・釈放し

たということですが、実質はそうでないことが誰の目にも明らかです。政治介入があったのではないかと自民党が追及したところ、民主党は否定しています。

実は、私はこの問題には政治介入があってもいい、むしろ積極的に政治介入するべきだと思います。外交においては、法の則を超えることが多くあります。特に今回の場合、フジタの社員4人が中国で軟禁されていますが、これは中国船の船長とのバーターであり、尖閣問題の報復として捕まえたということは明らかです。まずは彼等の解放のために、船長や拿捕した船を解放することを交換条件にして、政治家が責任をもって外交交渉するべきであり、これの実現のために、検察に指揮権を発動することがあっても良かったのではないのでしょうか。

要は、国内外問わず、日本の主権に関することの責任は全て政府が取るという自覚と責任があれば、堂々と指揮権発動して政治介入をすればいいのだということです。責任を全て自らが負う覚悟が必要であり、それによって相手国である中国に対して日本政府の意志を表明することができます。

ところが、今回のケースの最大の問題は、政府の立場や政治的な意向を表明せず、判断は検察が下したという誰がみても嘘とわかる答弁で逃げ隠れしていることです。検察側に責任を押し付けるという姿勢自体が非常に卑怯であり、政治家の態度としてはあるまじきことだと思います。つまり、我々が追求すべきことは政治介入の有無ではなく、「政治介入はすべきであるのに、なぜ堂々と発言しないのか」ということなのです。また、事後的な話になりますが、そ

うしたことを発言した上で、尖閣諸島を、日本の本当の主権の及ぶ領土・領海として治めていく為には、国際法上では国が認めているということだけでは足りません。国民や政府に、自国の領土は自分達で守るのだという決意と覚悟がなければ守りきれません。

今の中国は、日本人の覚悟の無さを突いてきています。自民党は現在野党ですが、与党に対して訴えるべきことは、政治介入してでも邦人の命を守るべきだということであり、二度とこの様な事を起こさせないために徹底的に防衛力を増強していく、我々はこの領海を守り抜くという姿勢を示していかなければなりません。そのためには、自主防衛路線をしっかりと示していかなければならないと思っております。これから国会が始まりましたら、この様なことをしっかりと国会の中で追及していきたいと思っております。皆様方のご支援今後ともよろしくお願いします。ありがとうございました。